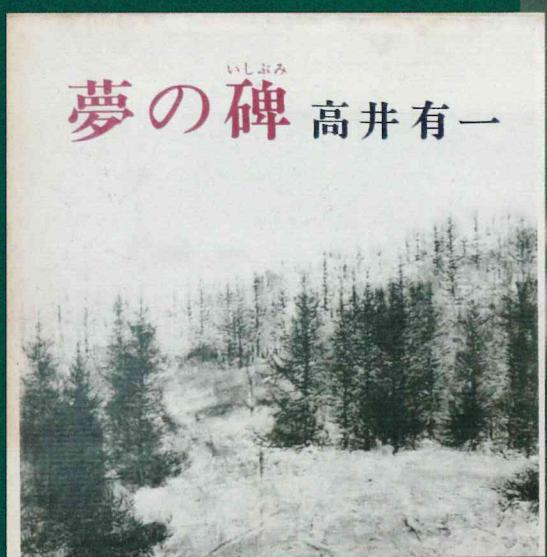


昭和51年8月に新潮社より出版された高井有一著『夢の碑』は、
高井有一の祖父田口掬汀を主人公に同時代を生きた
画家平福百穂、新潮社創設者の佐藤義亮をモデルに、
明治の人の新しい時代への野心と青春の軌跡を描いています。
今回の展示では高井有一の自筆原稿と『夢の碑』に描かれた
三氏の資料を中心に展示します。

高井有一 夢の碑の 周辺展



伝記と小説が結合した感銘深い文学
作家平福百穂、作家田口掬汀、出版人佐藤義亮
をモデルに描く陰影深い青春と友情、近代日本の
黎明期—明治という時代の文化の息吹き……
新潮社版 1200円



会期 2024.4/2[火]～6/30[日]

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時半まで)

休館日：月曜日(4月15日・22日・29日は特別開館)

観覧料：大人(高校生以上)500円、小中学生300円

※団体割引あり、仙北市民無料

主催：仙北市教育委員会

協力：中村輝子氏

新潮社記念文学館

〒014-0311 秋田県仙北市角館町田町上丁23 TEL 0187(43)3333

高井有一 夢の碑の周辺展

高井有一（たかいゆういち・明治7—平成28）

作家。東京都出身。祖父田口掬汀の故郷角館に疎開中、母の死に遭う体験を描いた『北の河』で芥川賞を受賞。小説『夢の碑』では、百穂・掬汀・義亮の交流を詳細に描いている。

田口掬汀（たぐちきくてい・明治8—昭和18）

作家・美術評論家。角館町中町出身。角館時代より「新声」に投稿、上京して新声社の記者を務める。退職後、大衆小説界のベストセラー作家となつた。その後、美術評論の道へ転向。晩年は田町に居を構え、百穂碑の建立に尽力した。

平福百穂（ひらふくひやくすい・明治10—昭和8）

日本画家・アラヤ派歌人。角館町横町出身。祖父文浪、父穂庵も日本画家。百穂の代表作は「荒磯」（東京国立近代美術館蔵）、歌集「寒竹」ほか。秋田蘭画を中心いて紹介したことで、小田野直武を歴史の表舞台に呼び戻した。岩波文庫をはじめ本の装丁も多く手がけた。

佐藤義亮（さとうぎりょう・明治11—昭和26）

出版人。角館町岩瀬町出身。活字文化の普及と無名新人作家の発掘を夢見て、雑誌「新声」を創刊。「新声」には百穂の挿絵、掬汀の記事などが掲載され、同郷の友人達が支え合い、互いに切磋琢磨し合つた。後に、現在も続く出版社「新潮社」を創立する。



新潮社創業者
佐藤義亮
Giryō Sato
1878-1951
生誕の地
秋田
角館



新潮社記念文学館
Shincho-sha Memorial Museum
of Literature

〒014-0311 秋田県仙北市角館町田町上丁23
Tel.0187-43-3333 ※仙北市学習資料館共通
www.city.semboaku.akita.jp/sightseeing/bungakukan/



JR角館駅・秋田内陸縦貫鉄道角館駅から徒歩10分
駐車約30台